

## ● 学力向上 ●

# 聴き合い・伝え合い・よく学ぶ子の育成

岡山県 津山市立一宮小学校（校長 尾崎文雄）

聴き合い・伝え合い よく学ぶ子の育成

- ① 全ての児童が自分の考えをもって授業に参加できる
- ② 考えを適切に伝える力を育てる
- ③ 友だちの考えを正しく聴く力を育てる
- ④ 聴きあい・伝え合いを通して、学力を高めることができる
- ⑤ 安心して話し合うことができる集団をつくる

### [はじめに]

本校は、津山市の北部の住宅街に位置し、全校児童数は458名、市内2番目に多い。教育目標は、「よく遊び よく学ぶ 子どもの育成」である。友達と仲良く元気に過ごし、力を合わせて学び合うことができる児童の育成を目指し、日々教育活動を行っている。

高学年で教科担任制を導入し、担当教科を焦点化することで授業の内容を充実させている。また、教育課程を工夫して各学年の児童に関わる職員の人数をできるだけ増やし、教科指導と生徒指導にチームで取り組む体制を整えている。

教育熱心な保護者や地域の方が多く、積極的に人材を活用し、学習補助・教育支援・環境整備・安全支援などを進めている。

### I. 研究の構想

これまでの研究・研修の積み重ねにより、考えを正しく文章に書くことができる児童が増えている。しかし、思いをわかりやすく伝えたり、友達と自分の意見を比較して聞いたり、話し合いを通して考えを深めたりすることを苦手とする児童が多い。また、学力調査等の結果から、「文章・図・グラフ等から読み取った内容を正しく説明する力」に課題があることが分かった。そこで、令和元年度から研究テーマを「聴き合い・伝え合い よく学ぶ子の育成」とし、話し合い活動を通して、児童の主體的・対話的で深い学びを目指す授業づくりに取り組んでいる。令和2年度も引き続き、このテーマで校内研究を進めていくこととなった。

## 研究構想図



## Ⅱ 研究の実践

### 研究日・研究授業

- ・毎週水曜日の放課後を研究日に設定した。
- ・全教職員参加の全体公開を年4回実施した。(2回は初任者研修授業公開) また、全職員が年1回、低・中・高学年部に分かれ、自由参加の授業公開を行った。

### 主な研究・研修の様子

#### 授業づくりの基本の確認

#### 一宮小学校の授業づくり

##### 3つの柱

- ◇**視線**を意識し、児童の目を見て授業を進める。
- ◇心地よい**リズム**と**テンポ**を大切にす。
- ◇**全員参加**の授業を行う。

- チャームが鳴り終わると同時に、授業を始める。
- 教科書やノートを全員が開いたことを確認する。
- ノートに下書きを敷かせる。
- 指示は、短く具体的に、くり返さない。
- 話を聞くときは、手に荷を持たせず、話している人を見て聴かせる。(メモをしながら聴くとき等、例外もある。)
- タイムマネジメントを厳格する。
  - ・学習内容の定着のための時間を確保する。
  - ・余裕をもった計画を立てる。
  - ・計画した時間を守る。
- 壁に応じた手立てを準備しておく。
  - ・課題が早くできた児童は促す。
  - ・自力解決が困難な児童にどのような支援をするか。
  - ・個別指導は短く、簡潔に行う。
- 全員が参加できる授業を行う。
  - ・全員に課題をつかませる。
  - ・自力解決の場面では、必ず何かノートに書かせる。(書けるための手立てを準備する)
  - ・自分の考えを話す機会を必ず設定する。(ペア、グループ、全体、いずれかの場面)
- 児童の学習の様子をよく観察する。目的をもって机間指導する。
  - ・つまづきや学習内容の定着度を確認する。
  - ・次の展開へ活かせる考えを見つける。
- 授業の評価を行い、次に生かす。
- 授業終了後、次の授業の用意をしてから休憩する。

## 話し合い活動のPDCAサイクルの活用

各学年団で考えた活発な話し合いを進めるための取組について、計画、実行、評価、改善のサイクルをしっかりと回すことができるように計画的に部会を開いた。



## オンライン研修

コロナ禍のもと、講師を招いて研修を行ったり外部の研究会に参加したりするのが困難な中、オンライン研修を年5回実施することができた。

講師 教授法総合研究所 理事長

椿原 正和 先生

内容 「オンライン授業の教育技術」

「基礎的読解力指導法」(全3回)

講師 日本文化大学法学部専任講師

木村 重夫 先生

内容 「算数科 指導法研修」(全2回)

## Q-Uを活用した学級づくり

Q-Uの実施後、専門の講師を招いて結果を分析し、今後の学級集団作りのための具体的な手立てを考えることができた。

## その他の研修

生徒指導や保健安全、ICT機器の活用等に関する必要な研修を適宜行った。

## 1 学年の実践

### (1) 児童の実態

自分の思いを伝えたい、発表したい児童が多い。発表の意欲は高いが、話し方や聴き方がまだ身につけていない児童が多いため、話し方・聴き方の学習が必要である。

### (2) 学年団の取組

自分の思いを伝え合える児童を育てるために以下の3点に取り組んでいる。

- ①授業と家庭学習で音読に取り組み、文章に慣れたり、聞き手を意識した声の出し方や姿勢などの技能を身につけたりさせる。
- ②書き方のモデルを示してから、自分の考えをノートやワークシートに書かせ、自信をもって発表できるようにする。
- ③話し方・聴き方のモデルを示してから、2人組、班、全体などで発表し合わせる。

### (3) 授業実践

#### 国語科 くわしくかこう

「知らせたいな、見せたいな」

#### ・活動の手立て

本単元の主なねらいは「くわしく書くこと」であるが、児童がくわしく書くために、聴き合い、伝え合う活動とその手立てを取り入れた。まず題材を「家で見つけたからものを友達に知らせる。」こととした。1つ目の手立ては、友達に知らせるための声の大きさや読む速さ、姿勢を確認して音読や発表をさせることである。2つ目の手立ては、教科書のモデル文のように絵と文章を対応させてノートに書くことを知らせ、十分に時間をとって書かせることである。3つ目は、話し方・聴き方のルールやモデルを示してから、友達同士で発表し合えるようにすることである。

#### ・授業の様子

児童は、友達同士の発表の際、内容をただ読むだけでなく、相手に思いを伝えようと絵を指さしたり相手の顔を見たりしながら大きな声で発表していた。聴き手は興味を持って聴き、聞き取れなかったり、わかりにくかったりしたときには、助言することができていた。また、聴き終わってから、もっと知りたいことを質問する児童も多く、それを受けて文章を書き足したり、表記の間違いを直したりする児童も見られた。



◆ノートを見せながら、考えを交流

### (4) 成果と課題

国語科の学習では、平仮名を習い終わった6月後半より、書いて伝え合う活動を何度も取り入れてきた。その結果、児童は自分の思いを文章化して伝えることに意欲的になってきた。また、聴き方や質問の仕方も上手になってきている。2学期には、国語科だけでなく、算数科や生活科など他教科においても、伝え合う活動に生き生きと取り組めるようになっていた。

今後は、さらに聴き手を納得させるための理由付けをしたり、自分の考えと同じ所や違うところを見つけながら聴いたりできるようにしていきたい。

## 2学年の実践

### (1) 児童の実態

仲間と共に学習することが楽しく、意欲的に学習する児童が多い。そして、伝え合いの活動に喜んで取り組んでいる。しかし、語彙が乏しく、自分の考えを分かりやすく表現できない児童や相手が何を伝えようとしているのか読み取れない児童も多い。

### (2) 学年団の取組

語彙を増やし、伝え合いの活動を深めるために以下の4点に取り組んでいる。

- ①音読学習では、いろいろなジャンルの詩を紹介して暗唱させる。
- ②キーワードを示すなど発問の仕方を工夫し、どんな言葉を入れて発表するかを意識させる。
- ③自分の考えを持つ時間を十分に確保し、自信を持って伝え合いをさせる。
- ④話し方聞き方のポイントを示し、意識させ基礎技能を身に付けさせる。

### (3) 授業実践

国語科 読んで考えたことを話そう

「どうぶつ園のじゅうい」

#### ・活動の手立て

動物の病状と治療方法、獣医である筆者の思いを、キーワードを示しながらパターン化して学習を進めた。獣医の一日の仕事内容をニュース原稿にまとめ、アナウンサーになりきって発表することにした。

#### ・授業の様子

学習のゴールが「アナウンサーになりきって発表する」と明確だったので、大事な言葉を落とさず分かりやすくノートにまとめていた。原稿の読み手は、声の大きさや間の取り方など話し方のポイントを意識して発表した。また、聞き手は、反応しながら聞くなど聞き方のポイントを意識できた。



◆アナウンサーになりきって発表

国語科 みんなで話をつなげよう

「そうだんにのってください」

#### ・活動の手立て

「お悩み相談」と名付けて、友達の相談に対してアドバイスをするという課題を設定した。相手の発言を復唱して確かめることや共感の気持ちを述べること、質問をしてさらにより解決法を導くことなど、話をつなげていくことが大切であることを気づかせた。

#### ・授業の様子

話をつなげていくための具体的な手立てを学習したので、話がつながることの楽しさや話し合って良かったという実感を持つ児童が多かった。

### (4) 成果と課題

音読学習で、語彙が増えたり言葉に興味を持ったりする児童が増えた。相手を意識して伝え合いをするためのポイントを意識させたので、相手の意見に反応して話し合いをする楽しさを感じていた。しかし、自分の思いをまとめながら話すことができていないので、話題がずれることもあった。話題にあった内容を順序よく話すことも意識させていきたい。

### 3学年の実践

#### (1) 児童の実態

意欲的に学習に取り組み、ペア学習やグループ学習などで意見を伝え合うことができる児童が多い。しかし、友だちの意見を自分の意見と比べながら聴くことのできる児童は少ない。

#### (2) 学年団の取組

活発な話し合い活動を実現するために、まずは全員が自分の考えや意見をノートに書くことから取り組んだ。自力解決の時間を充分にとることで、自分の考えを持って発表することができるように努めた。書くことが苦手な児童や、自分の意見を持ちにくい児童に対しては、定型文やキーワードを提示するなどして、できるだけ自分の言葉で書くことができるようにした。

#### (3) 授業実践

##### 算数科 「図を使って考えよう」

###### ・活動の手立て

問題の意味を理解するために、挿絵を使って課題を提示し、問題文に下線を引いたり囲ったりして分かっていることや求めることをおさえた。

線分図をかく時には問題文を一文ごとに区切り、文脈に沿って順にかくように指導した。

自力解決の場面では立式して答えを出すだけではなく、他の方法を考えたり、自分の考えを説明するための文章を書いたりさせた。

話し合いの場面では、ペアから全体の流れで話し合い活動を取り入れ、自分の考えに自信をもたせた上で友だちの考えに付け加えをさせたり、図をもとにして理由を含めて説明させたりした。

###### ・授業の様子

指導を丁寧に行ったことで、全員が正しい線分図をかくことができた。そのため、立式や話し合いの場面に多く時間を使うことができ、深い学びにつながったように思う。また、練習問題を解く際には、初めの問題で作図や立式、説明の定型などをおさえていたため、自力解決の際にスムーズに問題に取りかかることができ、子ども達も「できた!」「わかった!」と達成感を感じることが出来たように思う。



◆ノートを見せながら説明

#### (4) 成果と課題

自力解決の時間をしっかりと取り、全員が自分の考えを持ってから発表することで、より活発な話し合いができた。どの教科においても、一人ひとりの子どもの思いや考えを大切にしたい授業を展開していきたいと思った。

定型文やキーワードを提示することで、苦手意識を持っている児童も自信を持って発表することが出来るようになってきた。また、同じ型を与えて発表することで、自分の意見と比べて聴くことができた児童が増えた。今後は、型がなくても、自分の思いや考えを伝えたり、自分の意見と比べながら聞いたりできるようにしていきたい。

## 4学年の実践

### (1) 児童の実態

自分の考えを積極的に発言しようとする児童が多いが、自分の意見に自信がもてず、発表や話し合いにほとんど参加できていない児童もいる。

### (2) 学年団の取組

活発な話し合いができる児童を育てるために以下の3点に取り組んでいる。

- ①意欲的に学習に取り組めるような課題を設定し、全ての児童に確実につかませる。
- ②自力解決の時間を十分に確保し、考えをノートに記述してから自信をもって話し合いに参加できるようにする。
- ③話し方聴き方の基礎技能を定着させる。

### (3) 授業実践

国語科 場面の様子をくらべて読み、感想を書こう「一つの花」

#### ・活動の手立て

聴き合い、伝え合う活動を行うためには、まず自分の考えを明確に持つことが大切だと考え、そのための手立てを取り入れた。1つ目の手立ては、父親の心情が表れている行動や会話、情景等のキーワードを見つける時間を十分に確保することである。2つ目は、キーワードから読み取った心情をノートに記述することで、考えを整理し、根拠を明確にもって話し合いに参加できるようにすることである。3つ目は、考えをわかりやすく伝えるための話し方や、友達の意見を正しく理解するための聞き方を教え、考えが深まるような話し合いをさせることである。

#### ・授業の様子

児童は、父親の心情が表れている多くの

キーワードを見つけ、それを基にゆみ子への思いを深く読み取り、ノートに記入していた。そして、読み取った内容を積極的に発表し、考えを交流することができた。話し合いを通して、友達の考えの良さに気づき、自分の読みを深めることができたと感じている児童が多かった。



◆スクリーンにノートを写して説明

### (4) 成果と課題

国語科の学習では、「キーワードを見つける」「キーワードから読み取った内容をノートに記述する」「記述した内容について話し合い、考えを深める」という流れで授業を繰り返したため、授業を重ねるごとに、大切な言葉を見つける力や内容を深く読み取る力が高まっていく姿が見られた。また、話し合いに自信をもって参加している児童の姿も次第に多く見られるようになった。他教科の学習でも、文章の中からキーワードを見つけ、それをもとに考えを深めることや、考えを記述し整理してから発表することで、自信をもって話し合いに参加することができていた。活発な話し合いを行い多様な意見が出ることで、考えをより深めることができていた。今後は、質問や付け足しの発言が増えていくような手立てを考え、話し合いを通して、さらに深い学びができるようにしていきたい。

## 5 学年の実践

### (1) 児童の実態

学習に真面目に取り組むことができる。その為、自分の考えをノートに書き表せる児童が増えてきた。しかし、全体に発表したり、話し合いに積極的に参加したりできる児童は少ない。

### (2) 学年団の取組

まずは自分の考えをノートに書き表すことに継続して取り組んできた。そのために、自力解決の時間を十分に確保できるような授業構成に努めた。自力解決では何について考えたらよいかわかるように、「めあて」や「主発問」が明確なものになるように教材研究を進めてきた。自分の考えを書いたり、発表したりできた時にはしっかりと賞賛し、自信をつけるようにした。

### (3) 授業実践

社会科 資料を読み取り、自分の考えを伝えよう「水産業のさかんな地域」

#### ・活動の手立て

考えた事を聞き合い、伝え合う活動につなげるために次のような手立てを行った。

まず、一人ひとりが課題をつかむことができるように、資料の読み取りを全体で行った。「気がついたこと」や「そこから見えてくる課題」についてみんなで考えを出し合い、課題決定を行った。自分達で見つけ出した課題だからこそ、主体的に解決しようとする意欲につながると考えた。

次に、発問の工夫をした。自分の意見を持って話し合いに参加できるように、二択から選んで答えられるような発問にした。また、ペアやグループ交流では、自分のノートを見せて交流するようにした。その際、

根拠になった資料や本文を示しながら自分の考えを伝えるようにした。

#### ・授業の様子

水産業の国内生産量が下がり、輸入が増え続けていることに気づかせた後、これからの日本は『輸入にたよるべきか、生産量を上げるべきか』について考えさせた。根拠の持ち方には差はあるが、全員がどちらかの意見を持つことができた。特に、普段はなかなか自信が持てず、話し合いに参加しにくい児童も、同じ考えの人がいることで安心して話し合いに参加できた。



◆グループ交流の様子

### (4) 成果と課題

これまで取り組んできたことが力になっており、自分の考えをノートに書き表すことができる児童が多くなった。まず自分の考えをノートに書き表すことで、考えを整理できたり、自信を持って発表できたりするようになった。また、興味の持てる課題設定によって、意欲的に話し合いに参加しようとする態度が見られた。一方で、伝え方の手段がまだまだ定着していない児童もいるので、話型を示したり、良い手本を紹介したりする必要がある。

今後は、伝えることを見越したノートの書き方と、児童が考えたい課題設定を研究していくことが大切であると考えている。

## 6学年の実践

### (1) 児童の実態

友達の考えを聞くと、自分の考えが深まったり、さらに考えを広げたりすることができるなど、「話し合いのよさ」に気付いている児童が多い。また、考えを積極的に発言しようとする児童と、友達に伝えることが難しい児童に分かれている。

### (2) 学年団の取組

活発な話し合いができる児童を育てるために以下の3点に取り組んでいる。

- ①発表をする前にまず、自分の考えをノートに書く。
- ②自分の書いたノートの記述をもとに、ペアやグループで話し合い活動を行う。
- ③友達の話を聞く際には、メモを取りながら聞いたり、自分の考えと比べながら聞いたりすることができるようにする。

### (3) 授業実践

社会科 意見の交流をすることで、自分の考えを深め広げる

「若い武士たちが幕府をたおす」

#### ・活動の手立て

主体的・対話的な学びを促すために、次に示す手立てを取り入れる。

#### 手立て①

ペリーが来航した際、自分が江戸幕府の立場なら、「開国する」か「開国しない」かについて、自分の考えをノートに書くことにより、意見をしっかりとつとめることができるようにする。

#### 手立て②

全員が自分の考えを発表する。友達の考えを聞くことにより、児童一人一人が自分の考えを深めたり広げたりすることができるようにする。

るようにする。

#### 手立て③

クラス全体で意見を交流する。意見を交流する際には、討論形式で行う。自分の立場（開国派・開国しない派）を明確にしながらから討論を行うことにより、より活発な話し合いができるようにする。

#### ・授業の様子

自分の考えをノートに書くことにより、児童一人一人が自分の考えをしっかりと発表することができた。また、クラス全体での意見交流の場では、討論の形式をとったことにより、「開国する」「開国しない」といった自分の立場を明確にした発表ができた。そして、友達の考えを聞くことにより、自分の考えをより明確にしたり、考え方が変わったりするなど、活発な意見交流をする児童の姿が見られた。



◆討論の様子

### (4) 成果と課題

一人一人が自分の考えをノートに書く時間を確保したことや、全員が自分の考えを発表したり、討論の形式を取り入れたことは、児童の主体的・対話的な学びを促す上で有効であった。今後は、さらに児童が考えを活発に伝え合うことができるような授業の進め方を模索していきたい。



### Ⅲ 成果と課題

#### 1. 児童アンケート

6月と11月に「聴き方・話し方に関する児童アンケート」を実施し、学年団ごとに研究実践の成果や課題の分析と今後の取組の検討を行った。

#### アンケートの質問内容

##### 全学年共通の質問

- 問1 友達と話し合うことは好きですか  
 問2 友達の考えを聞いて、学習がよくわかるようになったことがありますか

##### 低学年への質問

- 問3 声の大きさや速さに気をつけて話していますか  
 問4 友達の話を最後まで集中して聞いていますか

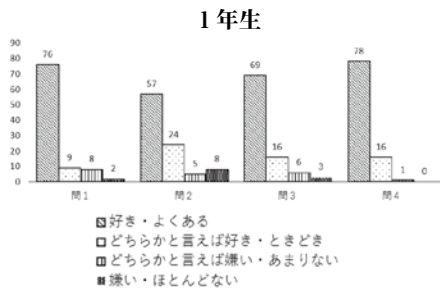
##### 中学年への質問

- 問3 理由や例をあげながら、思いや考えを伝えていますか  
 問4 友達の話を自分の考えと比べながら聞いていますか。

##### 高学年への質問

- 問3 図や資料を活用して、思いや考えを伝えていますか。  
 問4 友達の話を自分の考えと比べながら聞いていますか。

#### 11月の結果の分析



#### 成果

- ・自分の考えをもち、話し合うことが好きな児童が増えている。
- ・声の大きさに気をつけるなど、相手意識をもって話すようになった児童も多い。

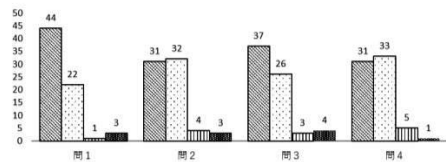
#### 課題

- ・友達の考えと自分の考えを比べて聞いたり、話し合いを通してさらに考えを練ったりできる児童はまだ少ない。

#### 課題改善への取組

- ・友達の考えは自分の考えと「同じ」「似ている」「違う」のどれなのかを考えながら聴くようにさせている。

#### 2年生



#### 成果

- ・友達との意見交流・話し合いを好む児童が多い。
- ・国語での学習に加え、日々の生活の中でも児童が話し方・聞き方のポイントを意識できるような取組を行った。

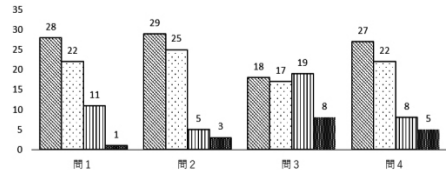
#### 課題

- ・まだ語彙が少なく、相手が伝えようとしている内容が読み取れないことがある。

#### 課題改善への取組

- ・語彙を増やすために、詩の暗唱や国語辞典を使った言葉遊び等を行っている。

#### 3年生



## 成果

- ・ 友達の話を自分の考えと比べながら聞き、話し合いを通して学習がよくわかるようになった児童が増えている。

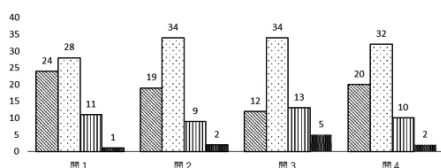
## 課題

- ・ 理由や例をあげながら、考えを伝えることができていない児童が多い。

## 課題改善への取組

- ・ 児童が考えを発表した際、教師が理由や具体例を問い返すようにする。

### 4年生



## 成果

- ・ 友達の考えを聞いて学習がわかるようになり、話し合いに積極的に参加している児童が増えている。

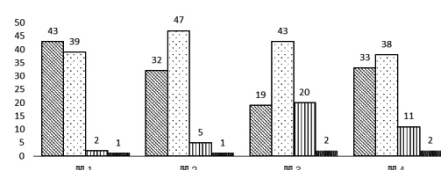
## 課題

- ・ 考えの根拠や例を、うまく説明できなかったり自信をもって発表できなかったりする児童が多い。

## 課題改善への取組

- ・ 理由や例の示し方の基本的なパターンを紹介し、それに沿って説明をする練習をくり返し行う。

### 5年生



## 成果

- ・ 国語や社会では、文章や資料から根拠を見つけ、それを示しながら説明する活動を積極的に取り入れた。

- ・ 算数では、説明の仕方の手本を示し、それに沿って練習ができるようにした。

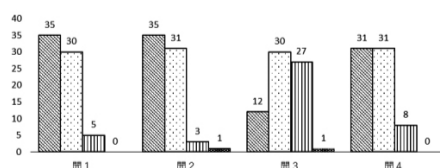
## 課題

- ・ 自信のなさや発表者の固定化が、話し合いを好きか嫌いか分けているようだ。

## 課題改善への取組

- ・ 考えを交流したくなるような課題の設定。
- ・ 意図的な指名を行い全員が発表しなければいけない環境をつくる。

### 6年生



## 成果

- ・ 討論などの授業を通して、話し合うことに少しずつ抵抗がなくなっている。

## 課題

- ・ 図や資料を活用する機会が少なかった。
- ・ 自分の考えと友達の考えを比べながら聞くことができない児童がいる。

## 課題改善への取組

- ・ 授業の中で図や資料を活用しながら説明する機会を増やす。
- ・ 友達の意見に対する感想や考えをノートに書かせる。

## 2. 総括

授業研究や児童の実態に応じた取組の成果により、非常に多くの児童が話し合い活動を好み、考えを伝え合うことの良さを実感できている。今後も取組の継続とさらなる授業改善を行い、充実した話し合い活動を通して、児童の話し方、聞き方の技能を高めていきたい。

(代表 校長：尾崎文雄)